



博物館だより

横須賀市自然・人文博物館
神奈川県横須賀市深田台95
046-824-3688

<http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp>



もくじ

巻頭特集：ご存じですか？「みんなの理科フェスティバル」	1
シーズン到来！磯(いそ)遊びに行こう！！	2
古代の琴は神を呼ぶ	3
水槽の2種に注目！天神島臨海自然教育園	4
観察路の一部通行止めを解除します！馬堀自然教育園	4

巻頭特集 ご存じですか？「みんなの理科フェスティバル」

博物館では2017年から「みんなの理科フェスティバル」(以下、「理科フェス」という)行事を開催しています。小中学生の自由研究や理科工作から、大学生や研究者の研究結果など、様々な年齢や所属の方に出品いただいた作品を一か所に展示し、出品者や参加者が集まって発表や交流ができる、場所・機会をつくるものです。科学に関するあらゆる探究活動を「理科」ととらえ、「こどもからおとなまで、みんなが『理科』でつながる」をキャッチコピーとしています。

過去2回の理科フェスは、博物館に隣接する横須賀市文化会館のギャラリーをメイン会場として開催しました(公益財団法人日産財団の助成を受けて実現)。

【第1回 みんなの理科フェスティバル】

2017年12月14日(木)～19日(火)。文化会館のメイン会場には43の個人・団体による理科研究ポスターや理科工作がならび、12月17日(日)にはそれらの出展者による発表のほか、寸劇や実験演示、ワークショップなどが行われました。博物館では国立科学博物館の巡回展を開催し、12月16日(土)にはミニ講演会を行いました。

【第2回 みんなの理科フェスティバル】

2018年12月14日(金)～17日(月)。文化会館のメイン会場には52の個人・団体による理科研究ポスター



左上図：2018年のポスター(一部)
右上写真：会場(文化会館)の様子
下の写真：左から、発表(一般)、寸劇(小学生)、実験演示(一般)、発表(小学生)



や理科工作がならび、12月16日(日)には第1回と同様の発表や実験演示、ワークショップなどを「みんなの発表会」として開催しました。博物館では海洋研究開発機構の協力のもとで「日本近海の深海生物パネル展」を開催し、12月15日(土)には講演会「海の研究から分かる自然環境」(主催：横須賀市役所環境政策部)を開催しました。

【みなさんの「理科」を発表しませんか？】

第3回の理科フェスは、2019年12月14日(土)・15日(日)を予定しています。本誌を読んでくださっている皆さんには、発表や来場をぜひおすすめします。博物館では、皆さんと一緒に「理科」でつながる交流の機会をもり上げていくことで、理科好きの小中学生が増えたり、横須賀ならではの研究や発明が生まれたりすることを楽しみにしています。

(昆虫学担当 内船)

編集後記

「自然教育園だより」から「博物館だより」に誌名を変更し、内容を博物館全体の情報に拡張してからの第3号となりました。次年度発行予定の4号以降も博物館に関連したフレッシュな情報をお届けしていきますのでご期待ください。(萩原)



シーズン到来！磯（いそ）遊びに行こう！！

陽気はすっかり春めいてきて、「休日にはどこかにお出かけ」という方も多いのではないのでしょうか。そこでおすすめなのが「磯遊び」や「磯の自然観察」です。

海には「潮汐（ちょうせき）」という現象があって、およそ1日に2回、海面の高さが上昇する「満ち潮（上げ潮）」と、低下する「引き潮（下げ潮）」が繰り返されています。これは月と太陽の引力に海水が引き寄せられることで生じるもので、満月と新月の前後4日は「大潮」と呼ばれ、潮汐による海面の高さの差が大きくなります。この海面の高さの差の最大値は、横須賀周辺の東京湾沿岸で約180cm、相模湾沿岸で約160cmに達します。

地球が太陽の周りを回るときの地軸の傾きの影響により、北半球では春から夏にかけて日中に海面の高さが低くなります。すると、ふだんは海に沈んでいるたくさんの「磯」が姿をあらわし、さまざまな生き物を見つけることができるようになるのです。特に潮が引いた磯にできる海水の水たまり「潮だまり（タイドプール）」は絶好の観察ポイントです。

どのくらいの生き物が見られるのか、当館附属天神島臨海自然教育園の磯では、イソギンチャクのなかま、エビ・ヤドカリ・カニのなかま、貝のなかま、ナマコ・ヒトデ・ウニのなかま、魚のなかまなど、100種類以上を見つけることができます。たとえば、ホンヤドカリはオスが気に入ったメスを連れ歩く春ならではの姿が見られたり、オモブランクス・エレガンスという優雅な学名がついたギンポのなかまのナベカが見られたり、「海の宝石」と呼ばれるほど美しいものが多いウミウシのなかまが見られたり、と見所満載です。

磯遊びをするにあたって、守っていただきたい事柄があります。一つは、漁業の対象になっている生き物は捕まえないこと。これは法令に違反する行為になり、処罰の対象になってしまいます。もう一つは自然に与えるダメージをできるだけ少なくすること。むやみにたくさんの生き物を捕まえたり、傷つけたりせずに優しく見守ってください。また、観察のため磯に転がっている石を裏返した場合には必ず元に戻しておいてください。そうすることで、次に訪れた時にまた同じよ

うに自然を楽しむことができるようになります。ルールやマナーを守って楽しく遊びながら自然を学びましょう。

（海洋生物学担当 萩原）



オスがメスを連れ歩くホンヤドカリ



エレガントな魚ナベカ



干潮時にあらわれた潮だまり



潮だまりの人気者アオウミウシ



古代の琴は神を呼ぶ

琴（こと）といえば、着物の女性が指に付けた爪で弦を弾き、優雅な調べを奏でているイメージを持つ方が多いでしょう。しかし、今から1500年前頃の古墳時代ではかなり様子が違っていたようです。古墳時代には埴輪がつくられています、このなかには琴を弾く人物の姿もみられます。ただし、確認できるのはすべて男性です。



1 蓼原古墳出土弾琴男子椅座像埴輪

横須賀市神明町にある神明小学校の地下に今も眠る蓼原（たではら）古墳から出土した琴を弾く埴輪は、椅子に座る男子です。烏帽子形の帽子を被り、後頭部には垂髪（すいはつ）がみられます。また、袴（はかま）の膝部分には鈴を付けた脚結（あゆい）がみられ、赤く彩色された沓（くつ）を履いています。これらはすべて高い身分を示す表現ですから、古墳時代に琴を弾いていた人は高貴な男性ということになります。ではなぜ高貴な男性が琴を弾いていたのでしょうか。

『古事記』仲哀天皇の条には「…、天皇御琴を控かして、建内宿禰大臣沙庭に居て、神の命を請ひき。」とあり、『日本書紀』神功皇后の条には「…、皇后、吉日を選びて、斎宮に入りて、親ら神主と為りたまふ。則ち武内宿禰に命じて琴撫かしむ。中臣烏賊津使主を喚して、審神者にす。」とあることから、古代において琴は国政に関して神の託宣を請う際に天皇自らあるいは重臣が弾く弦楽器であったことがわかります。

どのように弾いていたかといえば、埴輪の右手にヒントが隠されています。よく見ると、右手にはへら状の撥（ばち）が握られているのです。これは、指あるいは指先に付けた爪で弦を弾く奏法ではなく、撥で弦を叩くあるいは掻き鳴らしていた可能性が高いことを示しています。したがって、ハードロックのギターのように演奏することで、それを聞いた巫女がトランス状態になり神が憑依し、託宣つまり神のお告げを聞いていたと思われます。すなわち、古代の琴は音楽を演奏するためのものではなく、神を呼ぶための重要な祭祀（さいし）用具であったと考えられるのです。

本当に撥を持っているかご覧になりたい方は、人文館1階展示室までお越し下さい。弾琴埴輪がお待ちしております。もしかすると、古代の琴の音が聞こえるかもしれません。

(考古学担当 稲村)



2 垂髪



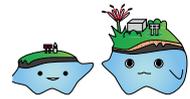
3 鈴付脚結と沓



4 右手に撥を持つ

水槽の2種に注目！

天神島臨海自然教育園



【「海の掃除屋」あらわる！】

天神島ビジターセンターの水槽に、珍しい仲間が加わりました。海底に沈んだ生き物の死がいなどを食べることから「海の掃除屋」と呼ばれるその生き物、見た目はまるで海を泳ぐ巨大ダンゴムシです。「オオグソクムシ」といいます。近年の深海ブームの火付け役でもある、キモカワイイ生き物「グソク（貝足＝鎧〔よろい〕の一種）ムシ（虫）」の仲間は、世界に約20種がいると言われ、日本近海の深海底に生息するのが「オオグソクムシ」です。「海の掃除屋」の二つ名にふさわしく、イワシやイカといった魚介類など生で与えた餌は何でも食べ、あっという間に完食してしまいます。市内の長井漁港で行われている深海のカニカゴ漁で捕まった個体を頂きました。



オオグソクムシ(左：正面，右：全身〔背面〕)

【岩場に梅干？】

天神島で観察できるイソギンチャクは何種類もありますが、その中でも人気なのが「ウメボシイソギンチャク」です。その名のとおり、干潮時は触手を縮めて「梅干し」のような姿で潮が満ちるのを待ちます。天神島では一部の岩場でしか観察できない珍しい生き物で、真鶴半島では県の天然記念物に指定されています。ビジターセンターでは、ガラスの水槽に張り付けて生活している姿が展示されています。



ウメボシイソギンチャク。触手を縮めているところ(左)と、伸ばしたところ(右)

(天神島臨海自然教育園 小長谷)

観察路の一部通行止めを解除します！

馬堀自然教育園

馬堀自然教育園では、観察路をより安全にご利用いただくための補修工事により、平成30年10月から園内の観察路を一部通行止めとしていました。このたび補修工事が完了し、平成31年3月中旬には通行止めを解除、ご利用いただけるようになります。



教育園北側の傾斜地を通る観察路。工事の前(左)と工事の後(右)

今回の工事では、①下の池近くの傾いた古い階段を水平にし、②教育園北側の急傾斜地を通る観察路への柵を増設し(右の写真)、③稜威(みいつ)神社跡の傾いた石碑をまっすぐにしました。

新しくなった観察路を見に、ぜひ馬堀自然教育園へお越しください。

(海洋生物学担当 萩原)

メールマガジン配信中！

メルマガに登録して、最新情報をGETしよう！！

展示やイベント、読み物「学芸員 自然と歴史のたより」など最新情報を配信しています。

◎ 登録は簡単！QRコードを読み込んで、E-mail アドレスを入力するだけ！！ ⇒

① 右のQRコードを読み込み、

博物館ホームページ内の「メールマガジン登録・変更・解除ページへ」をクリック！

② 「登録・解除フォーム」にE-mail アドレスを入力して「登録」ボタンを押せば登録完了！



URL ⇒ <http://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/mailmagazine>